

【問題】

情報社会の進展は、利便性の向上やコミュニケーションの多様化など、人々のライフスタイルに大きな変化をもたらしています。こうした中で、誰もがいきいきと暮らせる地域社会を実現するために、情報通信ネットワークをどのように活用していくべきか、あなたの考えを論じなさい。

【解答例】

ICT化の進展は、まさに「革命」というくらい、我々の生活に多大なる影響を及ぼしている。例えば、情報化が進展する以前であればわざわざ図書館などに出向かなくては調べられなかった情報を、現在では、インターネットを通じて、自宅に居ながら瞬時に得ることができる。また、電子メールやチャット、電子掲示板などを利用した新しいコミュニケーションは、その双方向性、即時性、公開性、匿名性などの特質により、従来のコミュニケーションのあり方を変えつつある。

情報通信ネットワークが有するこのような長は、区の責務の1つでもある「誰もが活き活きと暮らせる地域社会」の実現を推進していくものでもあるだろう。私は、「誰もが活き活きと暮らせる地域社会」に関し、地域に住む一人一人が人々のつながりの中に存在していると感じられることが不可欠の視点であると考えている。確かに現在、都心部に人口は集積している。しかし、地域コミュニティの衰退化とも関わり、地域社会における人々のつながりは十分に機能しているとは言いがたい。まして、特別区では一人暮らしの学生や単身赴任の社会人をはじめ一人暮らしの世帯も多いこと、加え、昨今では他者との関わりを持ちたがらない人も増えていることから、一人一人がいわば孤立している現状にあるのではないだろうか。その中で区には、地域社会におけるつながりを深め、さらに暮らしやすい社会を実現することが求められている。そして、その方法の1つが情報通信ネットワークの活用なのである。

この活用は、特に高齢者や障害者が活き活きと暮らせるためにも非常に有益な手段となる。身体が不自由な人は家にひきこもりがちになりがちであり、社会との関係を持ちたくともなかなか持てない人も多い。そのような人が、インターネットを通じ、行政や地域住民と連絡をとることが可能であるのは有意義である。加え、彼らが自らの有する知識や技能等を発信し、それに対するコメントが得られたりすることは、他者のために役立っているという生きがいをも生み出し、彼らが活き活きと暮らせるようになることにも繋がりうる。

さらに、情報通信ネットワークを活用することにより、区が地域住民同士の双方向的なコミュニケーションを創出することも可能ではないだろうか。その一例として、SNSの利用が考えられる。SNSの利点として、紹介登録制であり、紹介を受けた者しか利用できないため、不特定多数の者が利用する電子掲示板などに比べて安心してコミュニケーションが取れること、また、SNS内のブログやプロフィール欄がきっかけとなって他人と交流を行なえることが挙げられる。このSNSを区でも

活かしていくのである。具体的には、例えば文京区の区民に対し、一人一人もしくは一世帯に対して文京区のSNSが利用できるIDを与える。区民は、そのIDを利用してSNSにログインし、そこで形成されているコミュニティやブログを通じ、文京区の区民同士で交流を行なうことができるのである。さらに、そのトップページには区が発信したい情報、例えばお知らせ、イベント情報、お役立ちサイトなどを掲載することによって、より多くの区民に情報を知ってもらうチャンスが生まれる。加えて、ここに電子申請機能も設けることにより、区役所に出向かなければ受け付けられなかった行政事務をインターネットを通じて行なえるようにする。行政側にとっては行政コストの削減に繋がり、区民にとってもわざわざ区役所に行く時間や手間を省くことが可能となる。このような地域SNSを行政で運営していくことで、地域社会の中で年齢、職業、国籍の垣根を越えた住民同士の繋がりが創出されるのである。さらに、そのことを媒介とし、現実世界においても住民同士で交流を持ち、つながりを深めていくことができれば、自らが地域住民のつながりの中にあることを実感でき、さらには地域住民同士の結びつきも強くなって地域の活性化を図ることにもなると考える。

もちろん、このような施策はデジタル・ディバイドや犯罪の問題も含みうる。しかし、問題があるから取り組まないとするのではなく、想定しうる問題を抽出し、次善策も含めて検討していくことが望ましい。区民の側も行政に一方的に頼るのではなく、地域社会をどうしたいのかを考え、積極的に参画していくことが必要だろう。

以 上